

工学研究科

I	教育の水準	教育 16-2
II	質の向上度	教育 16-3

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 連携プログラムとして各専攻が開設する高度工学コースと従来の研究分野の枠組に囚われず学際研究に対応できる融合工学コースを設置しており、融合工学コースには、平成 25 年度に博士課程教育リーディングプログラムと連動するデザイン学と総合医療工学の2分野を新設し、8分野を選択可能としている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 連携プログラムでは、学生が授業科目を選択し、履修表を作成するテーラーメイドカリキュラムを導入するとともに、リーディング大学院と連動させて分野数を拡充したことにより、融合工学コースの平成 27 年度の学生数は、修士課程 60 名、博士後期課程 57 名となっている。

以上の状況等及び工学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における学生が筆頭著者の論文発表件数は、修士課程で合計 1,525 件、博士後期課程で合計 1,835 件となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 25 年度の修士課程修了生の約 11%は博士後期課程に進学し、約 88%は企業や研究機関に就職している。また、博士後期課程修了生の約 52%は大学等の教育研究機関に、約 32%は企業等に就職している。

以上の状況等及び工学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 多様な入学者を確保するため、TOEFL、TOEIC の英語試験科目への活用、成績優秀な学部生の筆記試験免除、外国人及び社会人に対する特別選抜試験等を実施している。
- 教員の FD 活動として、教育研究活動に関する自己評価書の作成、若手教員の海外派遣、語学・パソコン研修、e-learning による各種研修を行うなど、大学院教育の改善、向上に努めている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における学生が筆頭著者の論文発表件数は、修士課程で合計 1,525 件、博士後期課程で合計 1,835 件となっている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

